



日本語学会

The Society for Japanese Linguistics

2024年度 春季大会

2024年6月1日(土)・2日(日) 東京外国語大学府中キャンパス

6月1日(土)

ワークショップ会場 (研究講義棟101マルチメディアホール)	
会場担当	澤村美幸
セッション1	<p>ワークショップ 1</p> <p>ポライトネス理論と配慮表現研究 —今後の展開の可能性—</p> <p>発表者：宇佐美 まゆみ 山岡 政紀 牧原 功 小野 正樹</p> <p>司会：宇佐美 まゆみ</p>
	<p>9:30 11:00</p>

オープン学生セッション会場 (研究講義棟吹き抜けスペース:ガレリア)		
会場担当	中川奈津子 宮澤太聡 石黒圭	
セッション2	10:45 11:30	<p>O-1 思考に関わる文末の表現形式に着目した中学生意見文の調査 吉田 吏玖</p> <p>O-2 話し言葉における談話標識「いえ」の機能に関する一考察 彭 津</p> <p>O-3 クイズ疑問文における連体修飾節の特徴 俣平 洗希</p> <p>O-4 性格類型に基づくアニメキャラクターの発語機能にみる言葉づかいの特徴 佐藤 茉奈花</p> <p>O-5 類型論の視点から見た日本語の難易構文 崔 鯤</p> <p>O-6 多様な日本語コーパスへの語義情報悉皆付与 浅田 宗磨 古宮 嘉那子 浅原 正幸</p> <p>O-7 非規範的構文における「ニーヲ」型フレームの非存在についての解釈—統語構造の観点から— 西郷 太一</p> <p>O-8 古典語(をかし)とく(おもしろ)の用法の比較—『源氏物語』を中心として— 邱 昊煒</p> <p>O-9 滋賀県における若年層の素材待遇語の使用実態—第三者待遇偏用から「全待遇」へ— 坪井 菜央</p> <p>O-10 感動詞性を獲得した動詞タ形について 上田 地平</p> <p>O-11 シンハラ語を母語とする日本語学習者の意見文における接続詞の使用に見られる母語干渉—シンハラ語母語話者の日本語の意見文とそのシンハラ語訳との比較を通じて— MUDIYANSELAGE DONA AGRA CHATHURANI ILLUKPITIYA</p> <p>O-12 泉鏡花と朗読劇—「天守物語」に注目して— 関根 唯央</p>
	11:30 12:15	<p>O-13 「よくなる」についての日中対照研究 凌 倩潼</p> <p>O-14 願望文における格助詞の交代について 深澤 径子</p> <p>O-15 地域文化資源として活用される北海道方言に関する研究 玉田 桜子</p> <p>O-16 ストーリーライティング作文における接続表現の分析—児童生徒の作文データを対象として— 大島 海斗</p> <p>O-17 日中接触場面のLINE交流における「ほめ」の表現形式—スタンプと絵文字に着目して— 劉 金秋</p> <p>O-18 アルファベット語の多角的分析 游 瀚誠 三浦 唯華</p> <p>O-19 歴史的日本語資料を対象とした長単位・文節解析器Monakaの開発と検証 尾崎 太亮 古宮 嘉那子 浅原 正幸 小木曾 智信</p> <p>O-20 文の構造から見る文末の「だ」の中心的なほたらき 佐藤 蛭葉</p> <p>O-21 丁寧体の述語の形態について 河本 健汰</p> <p>O-22 『分類語彙表』を用いた格助詞「に」の用法の再考察—国立国語研究所『現代語の助詞・助動詞-用法と事例-』をもとに— 陳 柏丞</p> <p>O-23 外国語を母語とする日本語学習者向けの自学韻律学習教材の提案 狩野 晃弘</p> <p>O-24 日本語教育における「文型」親の系譜—戦時中の『コトバ』から現代の能力試験まで— 中西 亮介</p>

休憩 (45分)

80周年記念式典・シンポジウム会場 (アゴラ・グローバル プロメテウスホール)

大会式典司会：石黒 圭	
セッション3	<p>開会の辞</p> <p>会場校挨拶</p> <p>学会賞授賞式</p> <p>来賓祝辞</p>
	<p>シンポジウム担当：庵 功雄 太田 陽子 田中 祐輔</p>
<p>学会創立80周年記念シンポジウム</p> <p>世界の日本語学</p> <p>ゲストパネリスト 徐 一平(北京外国語大学) 指定討論者 近藤 泰弘 (日本語学会会長/青山学院大学名誉教授)</p> <p>曹 英南(高麗大学) 木部 暢子 (日本語学会副会長/人間文化研究機構)</p> <p>ダオ・ティ・ガア・ミー(ハノイ国家大学)</p> <p>ポリー・ザトラウスキー(ミネソタ大学)</p> <p>ジャン・バザンテ(フランス国立東洋言語文化学院) 企画・司会 庵功雄(一橋大学)</p> <p>カラム・ハリール・サーレム(カイロ大学) 太田陽子(一橋大学)</p> <p>田中祐輔(青山学院大学)</p>	
<p>13:00 17:30</p>	

会員総会会場 (アゴラ・グローバル プロメテウスホール)

司会 山田 昌裕	
<p>17:30 18:00</p>	<p>会員総会</p>

談話室	9:00-18:00	談話室	会場: 研究講義棟1階
書籍展示ブース	9:00-18:00	書籍展示	会場: 研究講義棟吹き抜けスペース:ガレリア
懇親会	18:00-19:30	懇親会	会場: 生協

6月2日(日)

		口頭発表A会場 (研究講義棟115)		口頭発表B会場 (研究講義棟226)		口頭発表C会場 (研究講義棟227)				
セッション4	司会(補助)	池上 尚(鴻野 知暁)		苅宿 紀子(大田垣 仁)		松浦 年男(中川 奈津子)				
	9:20 10:00	A-1	文部省編輯局編「送仮名写法」の送り仮名法史における位置づけ 岡田 一祐	B-1	原型からみた形容詞「カワイイ」の意味と新用法 北風 絵里	C-1	三重県旧南勢町における三拍動詞五段活用第1・2類のタ形アクセント変化 —類による区別から有声性による区別へ— 中津 陽菜	ワークショップ会場 (研究講義棟101マルチメディアホール)		
	10:10 10:50	A-2	キリシタン資料のタ行二重子音表記—パレト写本を中心に— 柄田 千尋	B-2	なぜ日本語二重目的語構文の基本語順は動詞によって異なるのか 田中 悠介	C-2	宮古語狩俣方言のアクセント体系と音調実現—3型から2型への推移— 衣畑 智秀	10:10 11:40	ワークショップ 2 日本語学習者の作文コーパスの構築に向けて —メタ情報付与の方法— 発表者: 横野 光 ライ・タイン・ホア 本多 由美子 司 会: 井伊 菜穂子	
	11:00 11:40	A-3	『金光明最勝王経』平安初期点における不読字処理の特徴 柳原 恵津子	B-3	現代日本語における表記選択の規則性について 細河 紗羅	C-3	ノダに後接するヨネの用法—ノダとの組み合わせによって変化する終助詞の意味— 安藤 清香 幸松 英恵			
ポスター発表会場 (研究講義棟吹き抜けスペース:ガレリア)										
セッション5	会場担当	庵功雄 田中啓行								
	11:40 12:40	P-1	複数短単位版「分類語彙表番号-UniDic」対応表を用いた『分類語彙表』の分析			菊池 そのみ 片山 久留美 高橋 雄太 小木曾 智信				
		P-2	『国立国会図書館デジタルテキストデータ』を利用した日本語研究の可能性と限界			岡田 祥平				
		P-3	尾張洒落本コーパスの構築			宮内 佐夜香				
		P-4	日本語歴史コーパス明治・大正編Ⅱ教科書の拡張—ハワイ日本語教科書第1期公開について—			ヤロシユ 島田 むつみ 竹内 綾乃 高田 智和 小木曾 智信				
		P-5	『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』の拡張計画について—BCCWJ2の構築に向けて—			山崎 誠 小木曾 智信 高田 智和				
		P-6	『日本語歴史コーパス室町時代編Ⅱキリシタン資料』の拡張—天草版『金句集』の公開—			黒川 茉莉 片山 久留美 小木曾 智信				
		P-7	全国自治体職員における外来語・略語使用意識の実時間変容			朝日 祥之 鎌水 兼貴				
		P-8	共通語の語彙を用いた、語が指す対象物の地域差の検討—「バンダー」の呼称・連想・認識対象調査—			吉岡 花菜				
フリータイム	(20分)									
		口頭発表A会場 (研究講義棟115)		口頭発表B会場 (研究講義棟226)		口頭発表C会場 (研究講義棟227)		ワークショップ会場 (研究講義棟101マルチメディアホール)		
セッション6	司会(補助)	北崎 勇帆(池上 尚)		李婷(苅宿 紀子)		中川 奈津子(坂井 美日)		会場担当 太田 陽子		
	13:00 13:40	A-4	「点」の抽象化について—近代漢語研究の視点から— 奥山 光	B-4	小説の地の文における指定指示の「この」と「その」の使用実態—八冊の小説に基づいた全数調査データによる分析— 鞠 恩彤	C-4	近世前期上方語の行為要求表現と話し手の階層 手塚 美希	13:00 14:30	ワークショップ 3 日本語学習アプリを使用した日本語初期指導に関する学際的な研究の試み—外国にルーツのある児童と教師は日本語でどのような談話を行っているのか— 発表者: 榎引 祐希子 米澤 千昌 王 林鋒 森田 英嗣 司 会: 榎引 祐希子	
	13:50 14:30	A-5	中古和文系資料における反語表現「ヤハ」「カハ」—結びの傾向と意味機能— 永田 里美	B-5	換言を表す接続表現の「つまり」「要するに」「要は」の相違—話者の性別による検討— 李 琦	C-5	気仙沼方言における疑問詞系感動詞の体系的記述の枠組みの提案—「ナニ」を中心として— 勝又 琴那			
休憩 (10分)										
セッション7	司会(補助)	鴻野 知暁(北崎 勇帆)		大田垣 仁(李婷)		坂井 美日(松浦 年男)		会場担当 太田 陽子		
	14:40 15:20	A-6	上代における不可能の補助動詞「かぬ」の成立—従属節用法に着目して— 小澤 颯太	B-6	児童作文における主題の一貫性の欠如の要因—学齢別の特徴に注目して— 加藤 恵梨	C-6	「さすが+の」の順接用法の展開について—BCCWJと新聞データベースの比較を通して— 周 世超	14:40 16:10	ワークショップ 4 資料横断的な漢字音・漢語音データベースの公開と活用可能性—2024年度版の改訂に伴って— 発表者: 加藤 大鶴 石山 裕慈 坂水 貴司 高田 智和 大島 英之 司 会: 加藤 大鶴	
	15:30 16:10	A-7	ト条件文・タラ条件文における文末モダリティ制約の史的変遷 竹林 栄実	B-7	アイドルの発信ツイートとファンのリプライ表現に関する因果構造—言語行動学的共分散構造モデルによる考察— 中野 亜莉沙	C-7	人形浄瑠璃における義太夫「語り」の感情表現—八王子車人形西川古柳座『日高川入相花王』より— 江澤 実紀 井伊 菜穂子 早野 慎吾 蔡 東生			
	16:20 17:00	A-8	日本漢文史における単語頻度の安定性の研究「漢文・漢語コーパスに基づいて」 呉 子凡 王 鼎	B-8	Chat GPTは「ボク」「オレ」らしく発話するのか—人間が作成した発話文と比較して— 西澤 萌希					
談話室	9:00-17:00 談話室 会場: 研究講義棟1階									
書籍展示ブース	9:00-17:30 書籍展示 会場: 研究講義棟吹き抜けスペース:ガレリア									

〔大会企画運営委員会〕 石黒圭 (委員長) 庵功雄 (副委員長) 小木曾智信 (副委員長) 池上尚 大田垣仁 太田陽子 苅宿紀子 北崎勇帆 鴻野知暁 坂井美日 澤村美幸 田中祐輔 中川奈津子 松浦年男 李婷 田中啓行 (委員長補佐) 宮澤太聡 (委員長補佐)

〔大会実行委員会〕 川村大 (実行委員長) 阿部新 庵功雄 池上尚 石黒圭 遠藤佳那子 大田垣仁 太田陽子 岡田一祐 小木曾智信 苅宿紀子 北崎勇帆 鴻野知暁 坂井美日 澤村美幸 菅長理恵 高木千恵 田中啓行 田中祐輔 中川奈津子 野間純平 花園悟 松浦年男 宮澤太聡 村山美和子 八木下孝雄 山田昌裕 幸松英恵 李婷